

農業総合研究センター かわら版

山形県農業総合研究センター 研究企画部
第4号 平成17年8月4日発行
〒990-2372 山形市みのりが丘6060-27
電話：023-647-3500
e-mail：nokense@pref.yamagata.jp
研究企画部では、編集に関する皆様からのご意見
ご要望をおまちしております。

平成17年度東北農業試験研究推進会議、畜産研究会及び草地・飼料作物研究会の合同夏季研究会が7月28日、29日最上町を会場に開催されました。



主催者挨拶を行う東北農業研究センター須山畜産草地部長

近年、家畜生産現場では乳用牛の繁殖率低下、肉豚事故頭数の増加など生産性の低下がみられます。また、飼料生産現場では低コストと自給率向上を目指した水田を活用した飼料生産の向上が求められています。これらを受けて、「省力、低コスト生産に向けた新たな挑戦」という研究会テーマが設定されたということでした。

研究会では、3名から話題提供が行われまし



話題提供の山中氏、菅氏、阿部氏（左から）

た。はじめに、東北農政局生産経営流通部畜産課長の山中直幸氏から「酪農・肉用牛生産近代化基本方針のポイントと飼料増産」について示されました。次に、本県農業総合研究センター畜産試験場の菅和寛研究員が、「肉用繁殖牛に対するリハビリ放牧の取り組み」と題して研究成果を報告し、さらに地元の最上総合支庁農業技術普及課の阿部正博主専研が「最上地域における低コスト飼料生産の取り組み」について事例紹介を行いました。

草地・飼料作物現地検討会は、真室川町コントラクター組合が取り組む飼料イネ生産事例と



真室川町佐藤牧場にて熱心にメモをとる参加者
最上町前森牧場の簡易草地更新状況の解説が行われました。



専用機による簡易草地更新経過の説明風景